

令和4年度 学校自己評価重点目標シート (川口市立高等学校 全日制)

(A4判横)

※学校関係者評価実施日とは、学校関係者評価委員会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

学校教育目標	未来を創る しなやかでたくましい人材の育成
目指す学校像	新しい時代の教育を創造し、しなやかでたくましい人材を育てる川口市のリーディング校

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

出席者	10名
学校関係者(教職員を除く)	4名
事務局(教職員)	6名

学 校 自 己 評 価					
領 域	年 度 目 標			年 度 評 価 (令 和 5 年 1 月 日 現 在)	
	現状と課題	重点目標	具体的方策	重点目標の達成状況	達成度 次年度への課題と改善策
組織運営	○川口市のリーディング校として、国公立・難関私立大学進学を目指す文武両道の進学校づくりの推進が求められている。 ○SSH指定を契機に、SSHを学校づくりの中核事業として推進していくことが必要である。	「進学校・SSH指定校として前進する」 ①理数科教育のさらなる充実、スポーツ科学コースの学力向上と特進クラスの特色化を図る。 ②政策アドバイザーと管理職が連動して各主任層との目標の連鎖を進める。	①理数科・特進クラス・スポーツ科学コースの特色化 ○SSHを軸にした理数科教育の一層の充実 ○土曜講習の工夫・改善 ○部活動の活性化 ②アドバイザー会議の定例化、管理職と各主任との定期的な情報交換の実施	①理数探究の授業開発等を大学・研究機関と連携し、着実に推進できた。また、日本薬科大学と包括連携協定を締結して特別講演会を実施するなどし、スポーツ科学コースの特色化を図ることができた。 ②アドバイザーや各主任との連携を進められた。	B ・特進クラスに魅力を感じさせるための特色化づくりが依然として課題となっている。 ・3年2学期の土曜講習の代替として「難関大学ゼミ」の実施が決まったが、生徒のニーズに応じた内容の充実と働き方改革の両面での検討をさらに進める必要がある。
教育課程	○新教育課程の円滑な実施とSSH指定に合わせて教育課程の部分的な改訂を進める必要がある。 ○1年次生へのBYOD導入と軌を一にして、ICTを活用した授業等を各教科や年次で研究・推進していくことが課題である。	「SSH事業を展開しつつ国公立大学進学に対応する教育課程を実施する」 ③国公立大現役合格50名以上を目指す。 ④観点別評価を学力向上に活かす工夫を行う。 ⑤部活動加入率90%以上を目標とする。	③授業時数を確保し、授業改善に全教科で取り組む。系また、3年間を見通した系統的な進路指導を行う。 ④各教科で観点別評価を実施し、その検証を行う。 ⑤学習と部活動の両立のため、家庭学習を奨励し、早朝及び放課後学習環境を整備する。	③修学旅行中、学期末、長期休業中における授業確保、体系的な進路指導を進めた。 ④9月に観点別学習評価研修会10月に大学教授を招聘しての学習評価研修会を実施して、的確な評価の実施に繋がった。 ⑤学力向上委員会は自学自習システムを改善し、自習室運営委員会は環境を整備した。	A ・附属中と高校とが連携した中高一貫の学習・進路指導体制を構築する必要がある。 ・観点別学習評価については教科を越えての情報共有と研究を継続し、評価の精度を高めていく。 ・幅広い教科科目の学習と部活動等との両立の価値を生徒に浸透させる。
開かれた学校づくり	○川口市内のみならず、全国的に本校の認知度を高めることが課題である。このため、SSHの事業、理数科、スポーツ科学コース、特進クラスなどにおける本校の魅力や特色を継続的にPRしていく必要がある。	「地域とともにある学校づくりを進める一方、中学校や塾に積極的に広報する」 ⑥高校入試における志願倍率の維持・向上を目指す。 ⑦近隣の小中学校との情報交換と連携を図る。	⑥○学校説明会・見学会等の充実改善 ○学校案内・ポスター・チラシ等の早期作成と配布 ○ホームページの逐次更新 ⑦○中学校教員対象の進路指導研修会の実施 ○小中学生向け体験型プログラムの実施	⑥学校説明会では生徒会生徒の協力を得て学校の良さをPRできた。チラシは4月中旬に、学校案内は6月中旬に完成し、各中学校に持参・郵送した。 ホームページ更新に多くの教員の協力が得られた。 ⑦校長会と連携し6月末に実施市科学館のイベントに参加	A ・学校説明会を教職員全体で組織的に取り組み、生徒募集に学校を挙げて取り組む。 また、学校説明会の運営に生徒をさらに参加させる。 ・ホームページには文武両道の取組を満遍なく掲載する。 ・近隣の中学校との連携を一層進める。
教職員の資質向上	○政策アドバイザーをはじめとする川口市独自の人材配置を研修等に活用していく。特に、今年度からの新採用配置に係る初任者研修を充実させる必要がある。 ○最新の施設設備や立地条件などから大学や研究機関の協力を得られやすい。	「授業第一主義を学校全体で徹底する」 ⑧授業における指導方法の工夫・改善を推進する。 ⑨探究的な学習の指導方法の研究を進める。 ⑩政策アドバイザー、AL支援員を活用し、AL等各種研修を充実させる。	⑧⑨○授業研究週間(年2回)での互見授業と教科別及び教科横断的研修の実施 ○校外研修への参加 ○SSH研究授業の実施 ○大学や研究機関との連携事業の推進 ⑩政策アドバイザーによる初任者研修の校内での開放	⑧⑨6月と11月に授業研究週間を各10日間設定し、互見授業を実施して各教科で授業改善を進めた。SSHを軸に探究的な学習手法に取り組む組織作りを行った。お茶の水女子大等との連携が深まった。 ⑩初任者研修が授業改善の発信の場となった。	A ・広報研修部担当の授業力向上に向けた研修のさらなる活性化を進める。今後、SSHの探究学習の取組を理数科から普通科へと広げていく。 ・大学等との連携を本校教育の質的向上にさらに繋げる。 ・アドバイザーを指導者とした人材育成を一層推進する。
施設・設備等の管理	○不審者・防犯対策、自転車事故の防止等、本校独自の安全面への配慮を行う。 ○附属中・定時制との施設共用に一層工夫していく。 ○ICTをはじめとする最新の施設設備を教育活動に効果的に活用することが求められる。	「最新の施設設備を効果的に活用し、学校生活及び登下校時の安全に配慮する」 ⑪学校内外での生徒事故防止に取り組む。 ⑫施設の共用・有効活用 ⑬BYOD導入とGIGAスクールによる新たなICT環境の整備を進める。	⑪○避難訓練等の防災教育と不審者・防犯対策の充実 ○自転車事故等防止のための登校指導の継続的実施 ⑫附属中・定時制との定期的な連絡調整会議の実施 ⑬生徒一人一端末のネットワーク環境の整備・検証及び教員側ICT環境の整備	⑪定期的な登校指導を実施。交通マナーの順守や事故防止の啓発に繋がった。 ⑫附属中・定時制・事務室の調整会議は月1回実施した。 ⑬ネットワーク環境はセキュリティ対策を含め整備が完成しつつある。教員用端末の更新についての検討も進んだ。	B ・防災拠点としての本校の在り方について地域の方々と共通認識を持ち連携していく。 ・附属中と定時制との施設共用に工夫して取り組む。 ・GIGA端末と生徒購入の端末が年次ごとに異なる状況の中で、学校全体で利用環境を整備していく必要がある。

学 校 関 係 者 評 価	
※実施日 令和5年2月6日	
学校関係者からの意見・要望・評価等	
・中学、高校共に優良な運営をしている。 ・目指すべき学校像の実現に向け、生徒、保護者、学校等で意識の共有が図られることを期待する。 ・土曜講習を充実させてほしい。生徒の学力向上に有効でこの後も継続できるものにしてほしい。	
・学校行事など教育活動がコロナ前に戻りつつある様子がHPからも窺える。 ・全教科の副教材の把握が必要。課題を精選して自習時間を確保することも大切。 ・附属中からの内進生が高校に上がってくるまであと1年であり、その接続や高校入学後の教育課程を詰めておく必要がある。	
・ホームページは閲覧数が多く、鮮度の良い記事をあげることでかなり効果があると思われる。 ・附属中は授業や行事など教育活動について非常によく上がっていて学校の様子が分かる。高校も記事は多いのだが、部活動が多く、進路や行事など学校生活の様子が少ない。保護者に学校生活が見えない。	
・授業が充実しており、先生が大変凝ったPPを作っているが、生徒とのやり取りは少ない。手を抜けるところは抜いて、是非生徒に考えさせる授業を組み立てて欲しい。 ・先生方が横に連携し、課題を共有しているか。ベテランと若い先生方が一緒に考え、授業を共有し、蓄積できるとよい。 ・今日の授業はレベルが高かった。	
・自転車のヘルメット着用が令和5年4月1日から努力義務になる。学校としてどう対応するのか。 ・必ずしも本校の生徒というわけではなく、大人のマナーも悪いが、この付近の高校生の自転車マナーの悪さは課題である。 ・新しい施設ではあるが、しっかり市の予算を確保し、適切に教育活動を進めてほしい。	